

小学生の「放課後教育拠点」と「子ども送迎タクシー」サービスの実証実験～刈谷放課後子育てMaaSプロジェクト～



(株)アイシン：大類 恵、川田 真由子
(株)名鉄スマイルプラス：飯尾元哉、富山哲弘

刈谷市 企画政策課：三浦 一将、荒井 秀行
刈谷交通(株)：横山宜幸、横山太朗

中央コンサルタンツ(株)：浅野 貴久、神谷 貴浩、羽深 茜

1. 背景と目的

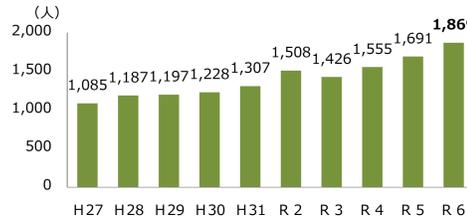
○愛知県刈谷市

- 人口：15.3万 (R6.7現在)
- 市中央部には世界をリードする自動車関連産業の本社及び工場が集積



刈谷市放課後児童クラブの実態

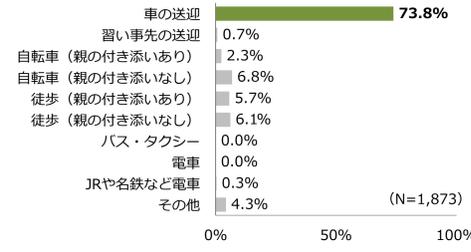
- 放課後児童クラブは、保護者が就業等により昼間家庭にいない児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供する事業である。
- 登録児童数は年々増加傾向となっている。
- 一部の保護者から、放課後により質の高い教育を受けさせたいといったニーズがある。



市内放課後児童クラブの登録者数の推移

小学生の習い事の実態

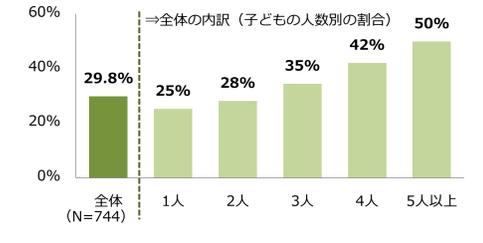
- 小学生の保護者を対象とした調査より、児童の93.0%が習い事を受けている。
- 習い事先への移動は「車の送迎」が73.8%であり、公共交通はほぼ利用されていない。



習い事先への移動手段

習い事送迎に対する保護者の実態

- 「車の送迎」をしている保護者のうち、79.5%は送迎を負担に感じている。
- 習い事で困っていることは、「送迎が負担となり、習い事をさせてあげられない」が最も大きく、特に多子世帯の割合が高くなっている。



習い事送迎が負担となり、習い事をさせてあげられない割合 (子どもの人数別)

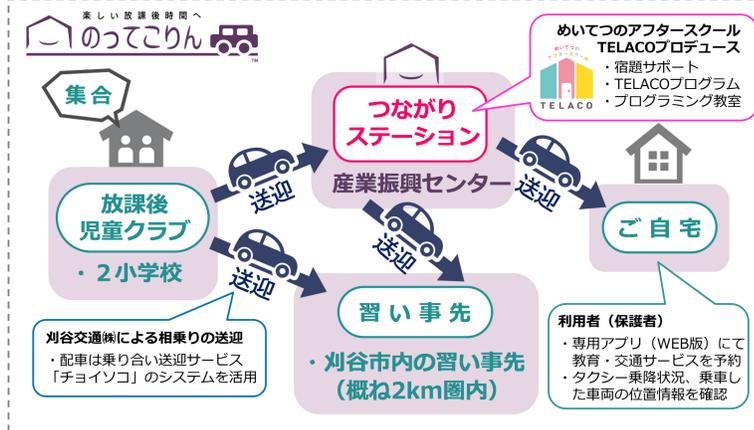
児童の放課後のモビリティを高め、保護者の送迎がなくても様々な学びや体験ができる子育てしやすい社会を目指す

2. プロジェクトの内容

放課後教育と交通をかけあわせたサービスを提供する実証実験 (国土交通省：令和5年度 地域交通共創モデル実証プロジェクトに採択)

対象	2小学校の放課後児童クラブの登録児童
実験期間	令和6年1月15日～2月16日 (約1ヶ月)
利用時間	平日の15時～19時
利用料金	無料
予約方法	専用アプリ (WEB版) にて保護者が予約

実証実験の概要



送迎・つながりステーションの関係性



- 放課後教育サービスは、市中心部の公共施設の会議室を活用。
- 愛知県内でアフタースクールを手がける(株)名鉄スマイルプラスにより、宿題サポートやオリジナルの教育プログラム等を実施した。
- オリジナルの教育プログラムは、知力・体力・表現力を養うことを目的に、静電気実験やパズルゲーム、ポッチャ等を実施した。



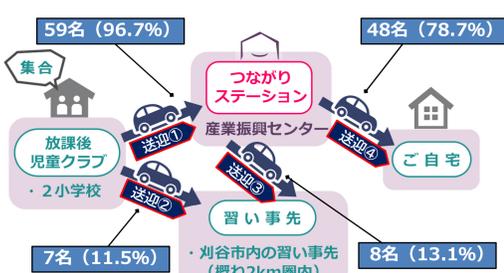
- 交通サービスは、刈谷交通(株)により相乗りのタクシー送迎を実施。
- 配車は乗り合い送迎サービス「チョイソコ」のシステムを活用。
- 安全対策として、児童に対して非接触ICチップを搭載した会員証を配付し、運転手が所持する端末にタッチすることで、タクシーの乗降を保護者に通知する機能を備えた。



3. 効果

利用状況と事前の意向調査結果との比較

- 登録者は児童70名で、1～2年生が全体の80%を占めていた。
- つながりステーションは、連日満席 (20名/日) で運用。
- 送迎は、日平均33.3人/日、便平均2.5人/便の利用。
- 習い事先への移動 (送迎②&送迎③) は、全体の10%程度であり、事前の意向調査結果と比較して利用が少なかった。



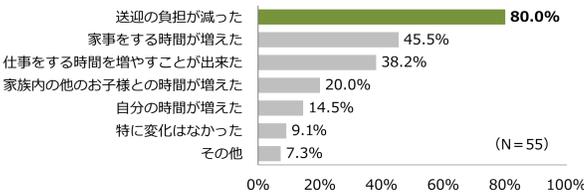
	実証実験 (A)	意向調査 (B)	差 (A-B)
送迎①	96.7%	88.1%	+8.6%
送迎②	11.5%	44.1%	▲32.6%
送迎③	13.1%	25.4%	▲12.3%
送迎④	78.7%	74.6%	+4.1%

短期間の実験であったため、習い事先への移動が顕在化しなかった。

実証実験 (利用実績) と意向調査結果 (利用意向) の差

保護者への効果 (事後アンケート調査より)

- 実証実験による保護者の暮らしの変化について、80%の保護者が「送迎の負担が減った」と回答しており、短期間の実験であったが、暮らしに好影響を与えたものと考えられる。



実証実験による保護者の暮らしの変化

- 実証実験に対する保護者の感想から、放課後教育拠点・送迎ともに意義のある取組との意見が多数あり、本格導入した場合は、保護者の就業にも影響があるものと考えられる。

参加する度に、学びを得て帰ってきていました

導入されたら、平日も習い事に通えそう

送迎してもらえると仕事を続けやすい

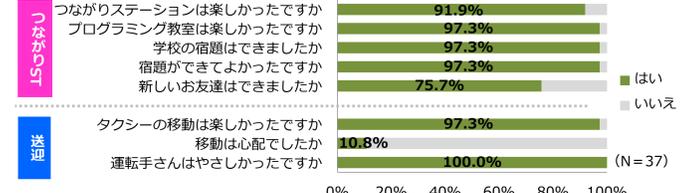
実証実験に対する保護者の感想 (自由回答)

タクシー事業者への効果

- タクシー事業者にとっては、ピーク時間帯ではない新たな需要があったほか、児童との会話を楽しむ運転手も多くみられた。

児童への効果 (事後アンケート調査・絵画調査より)

- 児童本人に対するアンケート調査結果より、「つながりステーションは楽しかった」が91.9%、「タクシーの移動は楽しかった」が97.3%と好評価が得られた。



実証実験に対する児童の感想

- 児童が描いた実験の思い出の絵画では、つながりステーション、タクシーとともに、複数人が描かれている絵が多く、他の児童との交流が楽しかったことが伺える。



4. 結論

- 短期間の実験であったが、放課後教育と交通をかけあわせたサービスは需要があり、保護者からは事業の本格導入を期待されていることが明らかとなった。
- 一方で、事業単独での独立採算は難しい側面があり、社会実装に向けては、運営の効率化や地元企業等の参画・協賛、行政の既存事業との役割分担が必要となること明らかとなった。

5. 今後の展開 (今年度の実証実験の予定)

- 令和6年11月5日から12月19日までの約2か月間、有料サービスでの実証実験を実施する予定。
 - 事業の本格導入を見据え、有料での放課後教育×交通サービスを提供するほか、つながりステーションの魅力向上や地域の参画を目的に、地元企業の協力による特別プログラムを企画する。
- ⇒検証結果から、官民の役割分担を踏まえた持続可能な事業スキームを構築